

天声人語

歌人千葉聰さん(49)に一首ある。〈教師とは幻 みんなが去つたあと教室に一人影を落として〉。中学高校で20年教壇につつ人ならではの歌境だろう。いまは横浜市立桜丘高校に勤務する▼教職は多忙を極める。授業の準備をし、部活の顧問をし、母の介護に努め、わずかな時間に創作の筆をとる。これまでもに「微熱体」「飛び跳ねる教室」など6冊の歌集を刊行した▼〈注意する、叱る、励ます、垂直に降らせる言葉だけ増えてゆく〉。クラスと息が合わず、声を張り上げては疎まれる悪循環に陥ったころの焦燥を伝える。〈先生には名前を呼ばれたくない〉と職員室まで言いに来たK▼女子生徒4人に授業の練習を迫られたK▼女子生徒4人に授業してみて」。教壇と黒板じやなく私たちの目を見て話して。生徒から学ぶことがいかに多いか。〈質問をされても答えられなくてまた読み直す『源氏物語』〉▼授業には工夫を凝らす。古文の助動詞はSMAPの曲に乗せて「る・らる・す・さす・しむ」。古今和歌集の授業では、おもちゃの楽器を奏でて、紀貫之の仮名序を歌う。「やまと歌は人の心を種として万の言の葉とぞ成れりける」▼卒業の季節はこのほか思いが深い。〈三年間みんな本当に()↑空欄に好きな言葉を入れ卒業せよ〉。この矢印、この字余り。生徒たちも意表を突かれたことだろう。通称は「ちば」と「先生。伸びやかな歌を、無限の夢を持つ全国の卒業生たちに贈りたい。